

ありがとう、広報ふくち発刊200号

# 今と未来を伝え続けて



「広報ふくち」は今月号で200号を迎えました。読者の皆さまへ感謝の気持ちを込めて、記念特集をお届けします。そしてこれからも伝え続けていきます。

↑2018年8月号で福智町として初の避難勧告、避難指示が発令された「平成30年7月豪雨」を特集。



→2017年11月号でスポーツで輝く福智町のアスリートたちを特集。



→2020年5月号で新型コロナウイルスに伴う町の変化や感染対策を特集。



2006年3月6日に旧3町（赤池町、方城町、金田町）が合併し、誕生した福智町。広報ふくちは、2006年4月号から始まり、皆さまの暮らしとともに歩み続けて16年、本号で200号を迎えました。行政からのお知らせはもちろん、地域の話題やニュース、住民の笑顔を詰めこんできました。これからも決して行政からの一方通行にせず、町の主役である住民の皆さまの笑顔や頑張っている姿、率直な意見を特集やまちの話題などで紹介することを心がけていきます。広報ふくちは皆さまとともに歩み続けたいと思っています。



## 「広報紙らしくない広報紙 白紙に息を吹き込む」

力を入れる「特集」や「写真」 広報ふくちが目指すもの

広報紙の作成は、他の部署と違って法律などの決まり事がない世界。いわば、正解がありません。だからこそ、住民に必要とされる、読みたくなる広報紙作りとはどのようなものかを手探りで探す必要があります。そこで広報ふくちが特に力を入れてお届けしているのが「特集」です。特集では、小さなことでも住民の皆さまの何かのきっかけづくりとなるようなテーマを決め、深く掘り下げることで、知ってもらいたいことや考えてもらいたい

たいことがより伝わりやすくなるかと考えています。加えて、読者目線の伝わる文章や引きつけるレイアウトなど意識して紙面を作り上げるようにしています。また、「写真」も力を入れていく。一枚の効果的な写真は、千文字の言葉より伝わる場合があります。表紙や裏表紙といった紙面の顔となる部分は特に意識して撮影に挑んでいます。これからも手に取って読んでもらうこと、そのための工夫は欠かせません。いい意味で、「広報紙らしくない広報紙」を目指して、これからも真っ白な紙面に息を吹き込みたいと思っています。

### 広報ふくちの変遷

- 2006年4月  
広報ふくち創刊号を発行
- 2006年10月、12月、2007年2月1日号に加えて、15日号を発行(3回)
- 2007年  
県の広報コンクールで特選、全国広報コンクールで入選を受賞  
一枚写真の部(2006年11月号)  
※2022年現在、県代表19回、全国入選14回
- 2008年6月  
紙面を大幅リニューアル  
(ふくちインフォメーションや四季の歌、ふくたまなど現在のレイアウトへ)
- 2014年4月  
広報ふくち100号を発行
- 2016年10月  
機構改革が行われ、広報・広聴係が総務課からまちづくり総合政策課へ
- 2022年8月  
広報ふくち200号を発行

▼2013年12月号入選1席  
広報紙の部  
特集「岐路を駆ける鉄路」

▼2011年12月号入選1席  
広報紙の部  
特集「笑顔でしわを増やそう」

▼2010年12月号入選  
広報紙の部  
特集「未来へのまなざし」

▼2009年12月号入選3席  
広報紙の部(読売新聞社賞)  
特集「招店街」

▼2008年12月号入選3席  
広報紙の部  
特集「上野JAPAN」

▼2006年11月号入選  
一枚写真の部(P16・17)  
「福智の祭り、ここにあり」

2001年の全国広報コンクール  
「日本広報協会主催」で「広報あかいけ」が3席に入選して以来、「広報ふくち」でも高い評価を得ています。ここでは、全国広報コンクールで入選を獲得した作品を一挙大公開します。

→旧赤池町の「広報あかいけ」が2度の最高賞(内閣総理大臣賞)受賞